

令和6年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業
地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 佐賀市 （都道府県：佐賀県）

1. 当該地域の情報（令和6年12月現在）

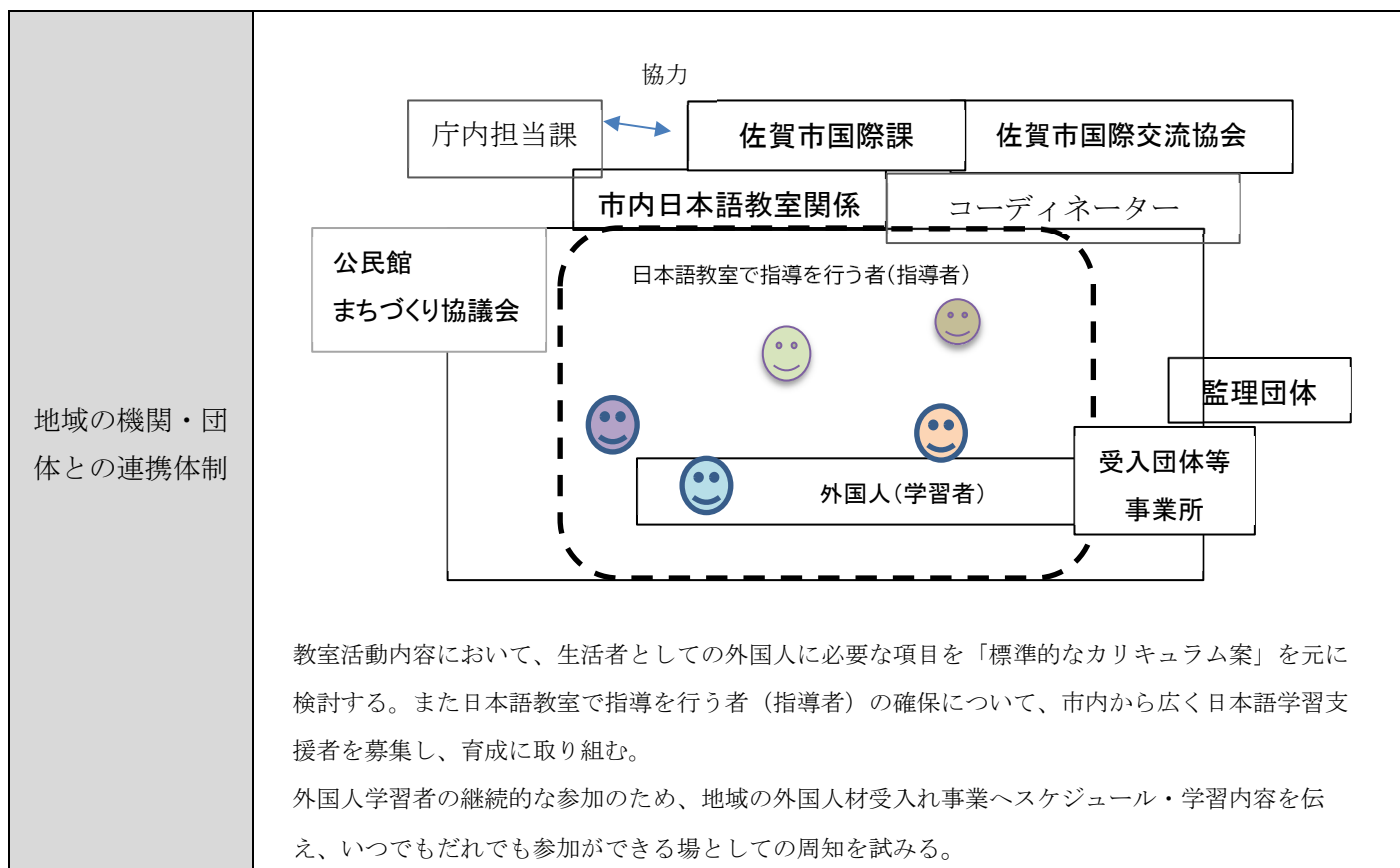
地域の課題	1 技能実習生・特定技能の外国人の多くは、住んでいる地域情報・住民との接点が少ない。 中心部以外でも、イベントや行事（河川清掃や祭り等）に参加する外国人がみられるようになってきているが、外国人自ら地域の生活情報を知ることが難しく、日本語で意思疎通を図る相手も多くない。 2 「地域住民全体でのまちづくり」に向けた在住外国人の存在認識が理解されていない。 本市は「佐賀市総合計画」「佐賀市まちづくり自治基本条例」に基づき、安心して暮らし続けることができる地域の実現を目指しており、そのまちづくりに、国籍関係なく外国人も地域の活力につながる存在との認識を促す啓発・取組が必要である。 特に近年災害へ平常時からの備えが求められ、在住外国人も日本人と同様、できるだけ自分の安全を確保し、地域支援にも関われる「自助・共助」の姿勢定着が求められている。
在住外国人数 外国人比率	【在住外国人数】 佐賀市：2,914人（久保泉校区 92人、春日校区 221人） 【外国人比率】 佐賀市：1.29%（久保泉校区 2.51%、春日校区 2.52%）
在住外国人の状況	【主な国籍】 ・佐賀市 <u>2,914人</u>：ベトナム 482人、インドネシア 463人、中国 378人、フィリピン 314人、ミャンマー300人、ネパール 287人、韓国 216人、バングラディシュ 87人、スリランカ 52人、カンボジア各 37人、米国 37人 ・久保泉校区 <u>92人</u>：ベトナム 33人、フィリピン 24人、インドネシア 17人、ウズベキスタン 8人、韓国 7人、オーストラリア 2人、中国 1人 ・春日校区 <u>221人</u>：ベトナム 119人、フィリピン 36人、インドネシア 17人、ミャンマー17人、中国 13人、韓国 3人、ネパール 3人、ラオス 3人、インド 2人、その他 6人 【在留資格】 ・佐賀市 <u>2,914人</u>：技能実習 625人、留学 597人、特定技能 422人、永住者 396人、家族滞在 228人、技・人・国 164人、特別永住 132人、日配等 89人、定住者 71人、介護 54人 ・久保泉校区 <u>92人</u>：技能実習 2号口 43人、技能実習 1号口 20人、技能実習 3号口 9人、特定技能 1号 9人、特別永住 6人、日配 2人、永住者 1人、経営・管理 1人、定住者 1人 ・春日校区 <u>221人</u>：技能実習 1号口 82人、技能実習 2号口 60人、特定技能 1号 33人、永住 13人、技・人・国 11人、家族滞在 8人、技能 4人、日配等 4人、特別永住者 2人、留学 2人、介護 1人、特定技能 2号 1人 【滞在年数・在留期間等の状況】 技能実習、留学、技・人・国等の活動に基づく在留資格保有者が半数を占め、彼らが3～5年で転入出する。 春日地区は技能実習生が8割を占めていたが、少しずつ特定技能へ移行が進んでいる。
在住外国人の日本語教育の現状	・「初級日本語集中講座」（佐賀市国際交流協会・佐賀県日本語学習支援カスタネット共催）有資格者の講師陣による日本語ゼロレベルから学習できる集中講座（36時間）を年3回開催。 講座を修了した学習者が地域日本語教室で継続して学習できる連携体制をとっている。

	・ボランティアによる日本語教室 市中心の「佐賀県国際交流プラザ」（管理者（公財）佐賀県国際交流協会）があり、その研修室で6団体が月2-4回活動中。有資格者も多く、質の高い学習支援を行っている。 ・日本語指導が必要な児童・生徒への支援 佐賀県国際交流協会（子ども日本語学習サポーター事業）と佐賀市教育委員会が日本語指導担当教員配置校（3つ）での受入れと、未配置校への巡回を行い、個別の指導計画・加配措置をとる。 また、佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会（さがわーんどりんぐ）が年3回の交流会や毎週1回の放課後学習会を実施している。 ・日本語専門学校 令和4年6月「佐賀ランゲージセンター」（株式会社ジャパンランゲージ）が開校、日本語専門コースに200名程の留学生が学んでいる。
--	--

2. 事業の内容

本プログラム取組年数	3年目			
事業の目的	・在住外国人が学校、職場そして地域で円滑にコミュニケーションを図り生活することを目的として日本語を学ぶ。 ・市民が日本語教室を交流の「場」として活用し、多様な価値観を理解しながら互いにつながる環境を作る。			
事業の概要	・日本語教室の定期開催（久保泉・春日） ・地域住民へコミュニケーション手段としての「やさしい日本語」の周知、日本語学習パートナーの育成と確保 ・教室継続に向けた地域のキーパーソンや団体との意見交換・活動連携			
事業の対象期間	令和6年4月～令和7年3月			
前年度の実績 （2年目以降の団体のみ記載）	・日本語教室の試行（久保泉7回、春日4回 計11回） ・佐賀県国際課（地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業）とのコーディネーター活用における事業連携 ・在住外国人の地域イベントへの参加促進（文化祭） ・外国人を講師とした地域住民との交流活動の実施「インドネシア・ハラル料理を知ろう！」（久保泉）			
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	貞松 明子	①佐賀県日本語学習支援カスタネット ②佐賀女子短期大学	①サポーターズ担当 ②非常勤講師	日本語教育の指導者等人材育成、研修企画・実施 日本語教室のカリキュラム・教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発
	馬場 三佳	①佐賀市国際交流協会 ②佐賀県日本語学習支援カスタネット ③西九州大学短期大学部	①職員 ②事務局担当 ③非常勤講師	検討体制メンバー・実施協力団体（兼務）研修企画・実施、日本語教室における学習環境整備
	吉原 千恵美	日本語教室にほんごすいもくすいようび	講師	日本語教室教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発
	藤瀬 利恵子	日本語教室にほんごすいもくすいようび	講師	日本語教室教材作成、日本語教室における学習環境整備、地域住民への意識啓発、参加の呼びかけ
	古田 美智子		講師	日本語教室のカリキュラム、教材作成、日本語学習環境整備
	宮副 千代子	佐賀市総務部国際課 多文化共生係	主事	事業全体の連絡・調整等事務全般

(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



組織・団体・機関名	担当部局	職名	担当者名
佐賀市国際課		課長	南雲 千寿
佐賀市国際交流協会	職員・多文化共生 マネージャー	-	馬場 三佳
佐賀県日本語学習支援 カスタネット	サポーターズ 担当	-	貞松 明子
にほんごすいもく		講師	吉原 千恵美
にほんごすいもく		講師	藤瀬 利恵子
		日本語講師	古田 美智子
久保泉・春日公民館	-	-	-
(久保泉・春日まちづくり協議会)	-	-	-
(監理団体・外国人労働者受入れ事業所)	-	-	-

4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの 主な活動	アドバイザーによる 助言・指導
令和6年 4月	・コーディネーター就任依頼 11日：公民館支援課／協働推進課への事業説明 25日：公民館館長／事業担当主事への事業説明		
令和6年 5月	14日、16日：コーディネーター 会議①② 17日：アドバイザー会議 (キックオフ) 24日：スタートアップオリエンテーション	・コーディネーター役割分担 ・事業報告書(案)の作成 ・地域行事予定確認 ・次月教室の活動計画・広報	松永先生1回(オンライン) 山田先生1回(オンライン) 御館先生1回(オンライン)

令和6年 6月	5・6・18日：コーディネーター会議③④⑤ 9日：教室活動① 15日：久保泉まちづくり協議会役員会事業説明 22日：教室活動② 28日：技能実習監理団体訪問 30日：教室活動③	・教室活動①②③ 関係者事前打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	
令和6年 7月	3日：外国人材受入れ事業所訪問（春日） 18日：外国人材受入れ事業所訪問（春日北） 19・25日：コーディネーター会議⑥⑦ 23日：アドバイザー会議② 27日：教室活動④ 28日：アドバイザー会議③ 28日：支援者養成講座①	・教室活動④ 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	松永先生1回（オンライン） 山田先生1回（オンライン） 御館先生2回（オンライン） 松永先生1回 山田先生1回
令和6年 8月	4日：教室活動⑤ 7日：外国人材受入れ事業所訪問（久保泉①） 10日：支援者養成講座② 24日：支援者養成講座③ 24日：教室活動⑥	・教室活動⑤⑥ 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	
令和6年 9月	2日：コーディネーター会議⑧ 8日：教室活動⑦ 13日：外国人材受入れ事業所訪問（久保泉②） 17日：コーディネーター会議⑨ 25日：アドバイザー会議④ 28日：教室活動⑧久保泉	・教室活動⑦⑧ 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	松永先生1回（オンライン） 山田先生1回（オンライン） 御館先生1回（オンライン）
令和6年 10月	6日：教室活動⑨久保泉 17日：コーディネーター会議⑩ 26日：教室活動⑩久保泉	・教室活動⑨⑩久保泉 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	
令和6年 11月	10日：教室活動⑧春日 24日：教室活動⑨春日	・教室活動⑧⑨春日 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	
令和6年 12月	3日：コーディネーター会議⑪ 14日：教室活動⑪久保泉 21日：教室活動⑩春日 26日：アドバイザー会議⑤	・教室活動⑫ 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	松永先生1回（オンライン） 山田先生1回（オンライン） 御館先生1回（オンライン）
令和7年 1月	12日：教室活動⑫久保泉 21日：コーディネーター会議⑫ 25日：教室活動⑬久保泉	・教室活動⑫⑬ 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	
令和7年 2月	9日：教室活動⑪春日⑭久保泉 20日：コーディネーター会議⑬ 22日：教室活動⑮久保泉	・教室活動⑪・⑭・⑮ 打合せ、広報準備、教材確認、当日スケジュール調整、実施後の評価、改善、アドバイザーへ報告	
令和7年 3月	6日：アドバイザー会議⑥ 11日：最終報告書の提出	・令和6年度事業評価 ・令和7年度事業準備	松永先生1回 山田先生1回 御館先生1回

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	はなすくらす みんなのにほんごきょうしつ 春日・久保泉						
外国人参加者について	〔国籍〕 インドネシア、ベトナム、ミャンマー、フィリピン等 〔属性〕 技能実習生、特定技能、介護						
参加者数 (内 外国人数)	受講者 104 名 (平均 4 名/1 回) 支援者 94 名 (平均 3 名/1 回) 日本語指導者 16 名 (のべ人数)						
開催時間数	総時間 51 時間				内訳 (春日) 21 時間 2 時間×10 回、1 時間×1 回 (11 月 24 日) (久保泉) 30 時間 2 時間×15 回		
開催頻度	2 回/月 (第 2 日曜日、第 4 土曜日)						
目標	・外国人は日本語での参加者との交流を通して、生活に必要なコミュニケーション力を習得する ・参加者同士が相互の文化理解や、共に地域行事に参加する等、地域社会とつながるきっかけをつくる。						
実施内容							
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数
1	令和 6 年 6 月 9 日 (日) 9 : 30～11 : 30	2	春日 公民館	1	挨拶・自己紹介	・自己紹介クイズカードをつかった交流 ・言葉ビンゴ	日本語指導者 0 名 支援者 2 名
2	令和 6 年 6 月 9 日 (日) 13 : 30～15 : 30	2	久保泉 公民館①	5	挨拶・自己紹介	・自己紹介クイズカードをつかった交流 ・言葉ビンゴ	日本語指導者 0 名 支援者 3 名
3	令和 6 年 6 月 22 日 (土) 9 : 30～11 : 30	2	春日 公民館	1	病気になったら	・「つなひろ」動画視聴 ・問診票を書く。 ・ロールプレイ (診察) ・フリートーク	日本語指導者 0 名 支援者 4 名
4	令和 6 年 6 月 22 日 (土) 13 : 30～15 : 30	2	久保泉 公民館	6	病気になったら	・「つなひろ」動画視聴 ・問診票を書く。 ・ロールプレイ (診察) ・フリートーク	日本語指導者 0 名 支援者 0 名
5	令和 6 年 6 月 30 日 (日) 9 : 30～11 : 30	2	春日 公民館	0	聞いてみたいこと	(30 分待機→中止)	日本語指導者 0 名 支援者 0 名
6	令和 6 年 6 月 30 日 (日) 13 : 30～15 : 30	2	久保泉 公民館	4	聞いてみたいこと	・テキスト学習 ・答え合わせ ・グループに分かれて解説	日本語指導者 2 名 支援者 1 名
7	令和 6 年 7 月 27 日 (土) 9 : 30～11 : 30	2	春日 公民館	0	防 災 に つ い て ①地震が来たら ②台風が来たら	意見交換会 (日本人のみ) ・参加のきっかけ ・参加者を増やす広報 等	日本語指導者 0 名 支援者 3 名
8	令和 6 年 7 月 27 日 (土) 13 : 30～15 : 30	2	久保泉 公民館	4	防 災 に つ い て ①地震が来たら ②台風が来たら	・防災動画視聴 ・避難場所確認、防災 LINE 登録、持ち出し品チェック ・段ボールベッドの組立 ・災害に備えた備蓄	日本語指導者 2 名 支援者 1 名
9	令和 6 年 8 月 4 日 (日) 9 : 30～11 : 30	2	春日 公民館	0	地域の祭り 浴衣を着てみよう！	(30 分待機→中止)	日本語指導者 0 名 支援者 4 名
10	令和 6 年 8 月 4 日 (日) 13 : 30～15 : 30	2	久保泉 公民館	4	お祭り ① 浴 衣 を 着 て ②盆踊りを踊りましょう	・地域の祭り (佐賀・久保泉) ・盆踊り指導 (地域講師) ・浴衣の体験	日本語指導者 0 名 支援者 6 名

11	令和6年 8月24日(土) 9:30~11:30	2	春日 公民館	9	聞こう！ 話そう！ 会話パートナー	・「ガイドブック佐賀」を やさしい日本で説明する。 ・グループで会話	日本語指導者0名 支援者2名 (学習支援者養成講 座受講者13名)
12	令和6年 8月24日(土) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	4	聞こう！ 話そう！ 会話パートナー	・「ガイドブック佐賀」を 日本語で説明する。 ・グループで会話	日本語指導者0名 支援者2名 (学習支援者養成講 座受講者4名)
13	令和6年 9月8日(日) 9:30~11:30	2	春日 公民館	2	聞こう！ 話そう！ 会話パートナー ②	・「ガイドブック佐賀」を やさしい日本で説明する。 ・グループで会話	日本語指導者0名 支援者8名
14	令和6年9月8 日(日) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	4	旅行の計画・ 旅行の思い出	・旅行の思い出を話す。 ・日帰り旅行の計画	日本語指導者0名 支援者5名
15	令和6年 9月28日(土) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	8	よみもの	・好きな本について、ペアで 本を読む。	日本語指導者0名 支援者4名
16	令和6年 10月6日(日) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	5	好きな料理、 得意な料理、 食べたい料理	・母国／日本の食を話す。 ・レシピを書き、発表する。	日本語指導者1名 支援者1名
17	令和6年 10月26日(土) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	6	2024 佐賀イン ターナショナル バルーンフェス タに行こう！	・競技のルールを聞く。 ・会場での計画を立てる。 ・グループごとに発表する。	日本語指導者1名 支援者5名
18	令和6年 11月10日(日) 9:30~11:30	2	春日 公民館	2	よみもの	・図書館で本を借りる。 ・借りてきた本を読む。 ・絵カードを読む。	日本語指導者0名 支援者4人 (内中国人留学生 2名)
19	令和6年 11月24日(土) 9:30~10:30	1	春日 公民館	3	2024 さが国際フ ェスタに行って みよう！	・さが国際フェスタを知る。 ・会場を回る計画を立てる。	日本語指導者2名 支援者1名 (中国人留学生 1 名)
20	令和6年 12月14(土) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	6	敬語・年賀状を 書こう！	・尊敬語を学ぶ(絵カード) ・練習プリント ・年賀状を書く(ペア)	日本語指導者3名 支援者3名
21	令和6年 12月21日(土) 9:30~11:30	2	春日 公民館	4	あなたの国の 国民食 「ミャンマー編」	・ミャンマーの説明／理解 ・「モヒンガー」の試食	日本語指導者0名 支援者8名
22	令和7年 1月12日(日) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	12	地域のサークル 活動を知ろう！ (日本舞踊)	・花柳流 富源会の紹介 ・日本舞踊の説明 ・着物の着付け体験	日本語指導者0名 支援者3名
23	令和7年 1月25日(土) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	6	オノマトペ (擬音語、擬態語)	・オノマトペの紹介 ・ペアワーク ・方言を聞く／話す。	日本語指導者0名 支援者2名
24	令和7年 2月9日(日) 9:30~11:30	2	春日 公民館	1	スポーツ体験 (ボッチャ・モルック)	・ボッチャ説明・体験 ・モルック説明・体験	日本語指導者1名 支援者4名
25	令和7年 2月9日(日) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	4	ひなまつり、 身体の部位、 症状を伝える。	・身体の名称を知る。 ・病気の症状と診療科目 ・症状を知る。 ・病院訪問時のロープレ	日本語指導者1名 支援者1名

26	令和7年 2月22日(土) 13:30~15:30	2	久保泉 公民館	3	学習の振り返り・ まとめ	・参加した活動を振り返る。 ・振り返りを各自発表する。 ・学びたい内容を伝える。	日本語指導者3名 支援者1名
----	---------------------------------	---	------------	---	-----------------	--	-------------------

【主な活動】



8月4日(日)久保泉
地域の盆踊りに参加するため、
浴衣を着て、地域講師から盆踊
りを学んだ。



11月10日(日)春日
本や絵カードを使い、単語の読み
を練習した。



2月9日(日)久保泉
身体部位・症状を学び、病院を
訪問した時の会話を練習した。

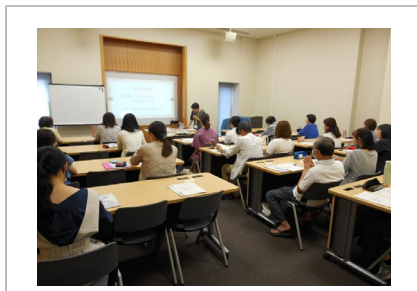
教室の立ち上げ に係る問題とそ の対応策	問題1: 教室活動の広報 →対応策 ① 外国人材受入れ事業所へ広報チラシを送付し、外国人に教室予定の周知を依頼した。 ② 特に外国人を数多く受け入れている事業所を訪問し、教室の説明をしたうえで参加協力の依頼を行った。 ③ 市のホームページや佐賀県多文化共生さが推進課のSNSへも投稿し、より多くの方に活動を知ってもらえるように工夫した。
	問題2: 様々な日本語レベルの学習者が参加しても対応できる体制づくり →対応策 様々な参加者を想定した活動の準備、資料作成に努める。 (教室活動の計画書作成、支援側全体での情報共有。資料のルビふりや多言語での補足)

(3) その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
日本語教育意見交換会	令和6年7月9日(火) 13:30~15:00	・佐賀市内の地域日本語教育関係者から各教室の活動状況と課題について聴取し、前年度実施した「外国人に日本語を教えてみませんか」講座実施後の受講者受入れ状況を聞き、久保泉・春日校区の支援者養成講座の実施について、意見交換を行った。 【参加者】市内日本語教室主宰 6人、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県日本語学習支援カスタネット、佐賀県多文化共生さが推進課 2人 計11人
日本語学習支援ボランティア養成講座 (入門・やさしい日本語)	令和6年7月~8月 ①7月28日(日) 10:00- ②8月10日(土) 10:00- ③8月24日(土) 10:00- (春日公民館・久保泉公民館)	【会場】春日公民館講座室(24日午後_久保泉公民館でも実施) 【対象】これまで日本語学習支援に関わったことのない希望者 ① 21人 ② 19人 ③ 17人 計51人(のべ人数) 【内容】 地域の在住外国人について、ボランティア・やさしい日本語について 学習パートナーとして最低限知っておきたい内容(2時間×3回)

外国人材受入れ事業所訪問	① 6月28日(金) (技能実習生監理団体) ② 7月3日(水) (春日 食品加工会社) ③ 7月18日(木) (春日北 介護施設) ④ 8月7日(水) (久保泉 介護施設) ⑤ 9月13日(金) (久保泉 機械加工会社)	・外国人材の受入れ状況 ・日本語学習ニーズの聞き取り ・春日／久保泉公民館で行っている日本語教室の広報
--------------	--	---

【主な活動】



8月10日(土)
日本語学習支援ボランティア
養成講座②
「外国語としての日本語」



8月24日(土)
日本語学習支援ボランティア
養成講座③(春日)
やさしい日本語での説明の実践
(ペアワーク)



8月24日(土)
日本語学習支援ボランティア
養成講座③(久保泉)
参加者全員でのアイスブレイク

5. 今年度事業全体について

事業推進にあたり問題点と対応策	問題点1：外国人学習者、日本人支援者ともに参加者が少なく、定着しない。 →対応策：日本語学習における支援活動以外に、参加者全員で楽しめる「食」「スポーツ」の活動も取り入れ、参加への意欲を保てるよう工夫した。 問題点2：日本語教室の交流活動と日本語学習がどう結びつくかの明確なゴール設定 →対応策：活動後参加者全員に「振り返りシート」で当日の評価をしてもらい、希望の活動や学習項目を聞き取り、その後の教室活動につなげた。
成果	(1) 域内の日本語教育の提供状況 ①日本語教室の立ち上げ ☐ 立ち上げが終わっていない ☐ 立ち上げが終わった ☐ 運営の安定化が実現した ②日本語教室の特徴 ・地域活動の参加につながるような取組を行っている。 ・年齢、国籍、性別に関係なく、活動や交流を通じて参加者同士の学びあいがある。 ・毎回の活動の最後に学習内容を振り返り、成果を持ち帰っている。 (2) その他の取組の状況 ・日本語学習支援に興味のある日本人の「多文化共生」「やさしい日本語」の理解につなげた。

地域の関係者との連携による効果	・ 地域の日舞サークル講師：参加者へ浴衣の説明や盆踊り講習をしてもらい、後日予定の地域のイベント「夏祭り」への参加につなげた。 ・ 公民館：ホームページに活動の様子を定期的に写真とともに紹介してもらい、地域住民への日本語教室活動の理解を促進した。 ・ 佐賀大学の留学生： ① 教室活動に参加してもらい、来日したばかりの中国人小学生との橋渡しをしてもらった。 ② 学習支援ボランティア養成講座に参加してもらい、受講者に「外国人とのコミュニケーションにおいて『やさしい日本語』が通じる」ことを体験してもらった。
コーディネーターの主な活動	・ 体制整備のための調整 ・ 人材育成のための調整 ・ 日本語教室開設及び運営のための調整 ・ 教材作成に向けた調整
アドバイザーの主な助言	【学習支援者の確保と活用】 ・ 学習支援者はその地域で見つけられなければ、市内に広く人材を募り確保してはどうか。 ・ 参加された方の意見を拝見すると、やってみたい活動の提案が多く出ている。主体的にこれをやりたいという方に活動・企画していただくと、動機が続く。 ・ 学習支援者の志向が様々で、寄り添い方も、自分が何か教えたい人、子どもに寄り添うようなサポートをしたい方もいる。ニーズに合った研修が今後必要。 【学習者確保・目標設定】 ・ Can-do で大事なものは、学習者と Can-do の目標を共有すること ・ ある程度日本語ができる外国人材との活動は、日本語教室という名称でない方が良いかもしれない。 ・ 参加者が少なければ、日本語学習支援者の皆さんにも一緒に、外国人の方がもっと参加してもらうにはどうしたらよいか、一緒に考えられると良い。 【地域との関係】 ・ 日本語教室の継続的開催のため、教室開催の地域に理解者を増やす。 ・ 外国籍のキーパーソンを教室活動や地域行事に取り込み、一緒にやっていく。外国籍の方は活動の幅も広く、非常に機動力があり、私たちが追いつかない位に活動をしている。 【活動の持続性について】 ・ 学習者、成功した回、うまくいかなかった回の分析は今後必要 ・ 教室の中だけの活動に留まらず、外に行動範囲が広がるような活動が良い。 ・ どういう方が何人来ても対応できる柔軟性を持ったスタイルを準備する。 ・ 地域で長く住んでいる人が、これから長く住もうという人に、何か伝えるような「縦」のつながりができると良い。

今後の課題	課題 1 （内容面） ・テーマの選定、開催スケジュールによって、参加人数の増減がある。 ・定着した学習者の人数を伸ばす。 課題 2 （経費面） ・参加者に人気テーマ（和装や食）は備品経費がかさむ。 課題 3 （体制面） ・参加者同士はゆるやかにつながりつつあり、つながりを継続するための工夫
今後の予定	(1) 今後の日本語教育事業の展開について ① 日本語教室の展開 引き続き地域日本語教室を開催する。 ② 日本語教室の実施主体と行政の関与について 本市が直接事業として日本語教室および事業を実施する。 ③ 財源の確保について 市の一般財源で予算を確保する。 (2) 今後の予定（取組等） ①日本語学習支援養成講座（令和 7 年 6 月頃） ②地域日本語教室 8 回（令和 7 年 7 月～令和 8 年 2 月） ※場所、時間、内容は今後検討

本件担当： 佐賀市役所 総務部国際課 多文化共生係